



薄井憲二 2011

バレエ・コレクション企画展

タマラ・カルサヴィナ

～バレエ・リュス永遠のプリマ・バレリーナ～

Tamara Karsavina

～Eternal prima ballerina of Ballets Russes～

2011/2/2 (Wed.)～2011/2/27 (Sun.)



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 2011

バレエ・コレクション企画展

タマラ・カルサヴィナ

～バレエ・リュス永遠のプリマ・バレリーナ～

2011/2/2 (Wed.)～2011/2/27 (Sun.)

セルジュ・ディアギレフに率いられ、1909年にパリで華麗にデビューし、1929年の解散まで社交界と芸術界の牽引役であったバレエ・リュスは男性中心のバレエ団として知られています。しかし、そこで活躍したのはもちろん男性だけではありませんでした。

今回はバレエ・リュスの女性ダンサーとしてももっとも長きに渡り主役として活躍し、ディアギレフがもっと信頼していたバレリーナ、タマラ・カルサヴィナについてご紹介します。

入れ替わりの激しいバレエ団にあって、デビューから終焉まで重要な役割を演じ続けたのは彼女だけでした。ロシア帝室バレエ学校で学び、マチルダ・クシェシンスカヤ、アンナ・パヴロヴァらに並ぶスターとしてロシア帝室バレエ団で活躍しながらバレエ・リュスにも参加していました。

彼女のパートナーには、ニジンスキー、マシーン、リファールらきらびやかなスターが並んでいます。

ディアギレフとの信頼関係は後に出版した自伝『劇場通り』で時に父のようなディアギレフの素顔についても言及している点でも伝わってきます。

ロシア革命に際して、在籍していたロシア帝室バレエ団を離れて英国に亡命、その地で後進の育成にも力を注ぎました。現在の英国ロイヤル・バレエ団創設にあたってでも尽力した一人です。

次回予告

ワツラフ・ニジンスキー ～栄光と挫折～

飛んだまま降りてこなかった、舞踏の神とまで呼ばれ天才の名を欲しいままにしたニジンスキー。しかし、彼が第一線で活躍したのはわずかな時間だった。その事は彼の活躍の陰に隠れて忘れられがちかもしれない。彼のダンサー、振付家としての素晴らしい業績と共にその人生を紹介します。

(期間：2011/4月下旬～ 於：2階メインエントランス)

◎企画・監修

芳賀直子(はが・なおこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター
Naoko Haga (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel : 0798-68-0223 (代表) fax : 0798-68-0212

Hyogo Performing Arts Center



カルサヴィナはロシア革命の勃発後、1918年に
英国人外交官であった夫の母国英国に移住し、
バレエ・リュスで活躍。1929年のバレエ・リュス
解散後はかつて『春の祭典』でニジンスキーを
手助けしたマリー・ランバートのバレエ団で
『レ・シルフィード』などにダンサーとして
出演する一方で振付も手がけた。またカマ
ルゴ協会でも踊るなど英国のバレエ創世
記に大きく寄与した。1946年から1955
年にかけては英国ロイヤル・アカデミー
の副プレジデントとしても活躍し、1955
年の『火の鳥』再演に際してはマーゴ・
フォンティーンを指導するなどバレ
エ・リュスと英国バレエの橋渡し役
として大きな役割を果たした。



タマラ・カルサヴィナ

～バレエ・リュス永遠のプリマ・バレリーナ～

タマラ・カルサヴィナ / Karsavina, Tamara (ダンサー、バレエ教師)
1885年3月9日生まれ、1978年5月29日死去

～略歴～

ディアギレフのバレエ・リュスの中で最も長期間、活躍したダンサー。短期間の不在時を除いて常に一線でその年の重要な作品の主演を演じた。ロシア帝室学校で学び、同バレエ団でデビュー、ソリストとして活躍し、バレエ・リュスに参加した後1918年まで同バレエ団の団員でありつづけたため、時に超人的なスケジュールをこなすこととなった。

兄が哲学者だったことも影響したためもあるのだろう、知性あふれる会話で社交界でも人気を得、ファンを魅了した。一時はフォーキンと恋仲であったこともあり、多くの作品をフォーキンに振りつけられている。『火の鳥』、『薔薇の精』、『ペトルーシュカ』、『三角帽子』などその当り役は多く、ディアギレフがもっとも信用していたバレリーナでもあった。1929年の解散後、バレエ・リュス亡き後は英国のバレエの母としても活躍。英国でこの世を去った。

～略年譜～

1885年 ロシア、でマリインスキー・ダンサー、プラトン・カルサヴィンを父に生まれる
1902年 ロシア帝室劇場付属学校卒業
1909年 ロシア帝室劇場のソリストに昇格(～1918年まで在籍)
1909年～1914 / 1919～1929年
バレエ・リュスの女性ダンサーの中心的存在として活躍、多くの重要作品に出演
1912年 ウラジーミル・ムクヒンと最初の結婚
1915年 英国人外交官ヘンリー・J・ブルースと結婚
1918年 夫と共にロンドンに移住
1930年 『劇場通り』を出版
1930～1931年 バレエ・ランバートでダンサーとしてまた振付けも手がける
1946～1955年 英国ロイヤル・アカデミーの副プレジデントとして、レクチャーやデモンストレーション、『くるみ割り人形』『ジゼル』『ラ・フィエ・マルガルデ』などの振付けを手掛ける

カルサヴィナ企画展出品リスト (作品・資料名/分類/年代/ほか)

- ◆『ザ・スケッチ』誌134巻1769号より『モーバン嬢の衣裳をつけたカルサヴィナ』
(スクラップ・ブック [SB-20-25] / 1926.12.26 / No.1769-Vol.134 / ロンドン、ザ・スケッチ)
Article from The Sketch, No.1769-Vol.134 "Karsavina in her Mlle. Maupin Costume" /
The Sketch / London / 1926.12.26. / 32.4×24.5cm / (SB-20-25)
- ◆『劇場通り』著者：タマラ・カルサヴィナ(書籍 [BK-0018-bio] / 1948年/コンスタブル社、ロンドン)
Book, Theatre Street～ the Reminiscences of Tamara Karsavina, Revised and enlarged Edition
Author: Karsavina, Tamara / Published by Constable & Company Ltd / London / 1948 /
22.3×14.6 cm / English (BK-0018-bio)
- ◆『劇場通り』著者：タマラ・カルサヴィナ
(書籍 [BK-0017-bio] / 1930年/ウィリアム・ハイネマン社、ロンドン)
Book, Theatre Street～ the Reminiscences of Tamara Karsavina,
Author: Karsavina, Tamara / Published by William Heinemann Ltd / London / 1930 / 22.3×14.9 cm
English (BK-0017-bio)
- ◆『クラシックバレエ、動きの流れ』著者：タマラ・カルサヴィナ
(書籍 [BK-0429-tec] / 1962年/アダム アンド チャールズブラック、ロンドン)
Book, Classical Ballet: The Flow of Movement
Author: Karsavina, Tamara / Published by Adam and Charles Black / London / 1962 / 25.5×19.2
cm / English (BK-0429-tec)
- ◆『タマラ・カルサヴィナあるいは王の庭に踊る時』
著者：ロベール・ブリュッセル クロッキー：チャールズ・フェリックス・ギール
(限定出版書籍 [AB-03] / 1910年/フランス、ソシエテ エックス ジェネラル ダンプレシオン)
Tamar Karsavina ou l'Heure dansante au Jardin du Roi (No. 0089/515) Author: Robert
Brussels, Croquis Gir, Charles Felix / Published by Société X Général d'Impression /
France / 1910 / 38.9×28.3 cm / English (AB-03)
- ◆『タマラ・カルサヴィナ』著者：ヴァレリアン・スヴェトロフ
訳者：ヴェール・ボークレーク、ナディア・エヴレノフ(写真表)
(限定出版書籍 [AB-13] / 1922年/C. W. ボーメント社出版、英国)
Book "Tamara Karsavina" with signature (No. 39/350) Author: Svetlov, Valerian translated from the
Russian by H. de Vere Beauclerk & Nadia Evrenov / Published by C.W.Beaumont / England /
1922 / 31.6×22.0 cm / English (AB-13)
- ◆ツァールコエ・セロ帝室劇場公演当日プログラム、モスクワ
上演作品：『せむしの仔馬』『白鳥の湖』/デザイン：アレクサンドル・ゴロヴィン
(プログラム [PR-422] / 1902年5月9日/モスクワ)
Programme of Tzarsoi- Sélo Imperial Theatre / Moscow / 1909. 2.12 / 27.5×22.9 cm
(PR-422) 写真上
- ◆タマラ・カルサヴィナ出演のハウスプログラム、マンチェスター、パレス劇場
(プログラム [PR-HP-127] / 1921年4月18日/パレス劇場/マンチェスター)
House Programme of Palace Theatre (Karsavina, Tamara with Novikoff, Laurent and Corps de Ballet)
/ 1921.4.18 / Palace Theatre / Manchester / 21.9 ×14.3 cm (PR-HP-127)
- ◆『レ・シルフィード』を踊るタマラ・カルサヴィナ(絵葉書 [PC1335ws] / ドイツ)
Karsavina, Tamar "Les Sylphides" / Germany / Verlag-Herrn, Leiser, Berlin- Wilm(8423) /
8.7×13.7 cm (PC1335ws)
- ◆タマラ・カルサヴィナの署名(署名 [AU-91] / 1920年代)
Signature of Karsavina, Tamara / 1920's / 7.6×12.4 cm (AU-91)
- ◆タマラ・カルサヴィナ、写真ボックス1よりポートレート、『せむしの仔馬』(1)、『アルミードの館』(33)、
『薔薇の精』(41)、『ペトルーシュカ』(43)、『サロメの悲劇』(48)
(写真 [PH-1725] / 1971年/フランシス・フランシス、ネスタ・マクドナルド/英国)
Photograph Portrait, Koniok Gorbounok(1), Le Pavillon d' Armide(33), Le Spectre de la Rose(41),
Petrushka(43), La Tragedie de Salome(48), from Box of Tamara Karsavina Box1.
Francis, Francis, Nesta Macdonald / England / 1971 (PH-1725)
- ◆タマラ・カルサヴィナ、写真ボックス2より『パレード』(53)、『上機嫌な女たち』(58)(写真表)、
『セレナーデ〜アイネ・クライネ・ナハトミュージクス』(65)、『くるみ割り人形』(67)、『モーバン嬢』(73)、
ポートレートとフレデリック・アシュトンの言葉(写真左)。
(写真 [PH-1726] / 1971年/フランシス・フランシス、ネスタ・マクドナルド/英国 44.5×32.0cm)
Parade (53), Le Astuzie Feminiili (58), Serenade-Eine Kleine Nachtmusik (65), Casse Noisette (67),
Mlle de Maupin(73), Portrait and a note by Frederick Ashton From Box of Tamara Karsavina (Box2.)
Francis, Francis, Nesta Macdonald / England / 1971 (PH-1726)
- ◆バレエを語るタマラ・カルサヴィナ、マリー・ランバール(タマラ・カルサヴィナとの会話)
(レコード [LP1] / 1959年秋/英国)
Tamara Karsavina, Marie Rambert (Talking with Tamara Karsavina) On Ballet / A Jupiter Recording,
London / サイズ×サイズ cm (LP1)